お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター 国際教育協力セミナー

カンボジアにおける幼児教育の現状と課題
－JICA シニア海外ボランティアとしての活動から－

講師　野村美知子氏（元 JICA シニア海外ボランティア）

日時：2004 年 7 月 17 日(土) 13 時～15 時
場所：お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター プロジェクト室
主催：お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター

＜野村美知子氏の保育の支援に関する略歴＞
＊1989.5～1990.3：（財）日本シルバーボランティアズよりボランティアとして、スリランカ・コロンボ近郊の重度心身障害児施設プリティプーラインファントホームへ。

＊1992.8～1995.3、1996.12～2000.3：NGO「幼い難民を考える会」のカンボジア保育事業担当としてカンボジアへ。

＊2001.10～12：NPO「パレスチナこどものキャンペーン」の依頼で、レバノン・ベイルートのパレスチナ難民キャンプ内幼稚園へ。

＊2002.4～2004.4：JICA シニアボランティアとして、カンボジア国立幼稚園教諭養成学校へ。

＜議事録＞　※特に表記がないものは，野村氏による談話

１．現地への派遣

(１)途上国からの要請

カンボジアからの要請により，選抜されて JICA シニアボランティアとして派遣された．カンボジアからの要請は，①養成カリキュラムの改訂，②教官のレベルアップ，③モデル授業運営の３点であった．

(２)現地の状況

実際に現地に入ると，カリキュラム改訂はまだ先という状況であり，行政のシステムがまだできていなかった．「小学校もまだ整っていないのに，まして幼児教育なんて」という

考え方が存在しているようであった.

カンボジアの幼稚園教諭養成は，高校卒業した生徒を全国で試験をして集める方法がとられている．集められた学生は 1 年間の授業(実質は７ヶ月)を経て，幼稚園教諭の資格を取得することになる．８７年頃国立幼稚園教諭養成学校ができたが，当初は 3，4 か月の研修で資格を取得していたということであった.

小学校の現状について見ると，小学校 1 年生から 2 年生にあがるための試験で 50%が進級できないという状況がある．この状況の改善のために幼稚園教育に力を入れてはどうかという考えが出ている.

幼稚園の設置状況であるが, プノンペンなどには 1960 年代から幼稚園が設けられていた. 現在では各県の大きな町に公立幼稚園があるが，地方では小学校に併設した形の幼稚園が増えてきている．また，大都市では英語も指導するような私立が増えてきている.
しかし，幼稚園に通うこどもを増やそうとしても、制度や施設が追いつかないという状況であり，5 歳児 80 人で１クラスを構成したり，クラスの半分だけ机に座って残りはござに座っているような例もある。

２．現地での活動

カリキュラム改訂にまで至らない状況だったので，授業を受け持って実際に生徒を教えたり、学外で公立幼稚園の研修をするなどの活動をすることとなった。．受け持った授業は音楽リズムと教材製作であった．カンボジアでは音楽や体育，技術・美術といった授業の開発がまだ進んでいない.

(１)音楽リズム

公立幼稚園の全国統一カリキュラムでは週に 1 度歌の時間が組まれているが，こどもが楽しむというところまでには至っていないように見受けられる。西洋の楽器の普及もあまり進んでおらず，楽譜を読める人も少ない．しかし現地のわらべうたや民謡には優れたものがあることも分かり，かつて NGO からもらった楽器を用いて，授業の中で保育に活かせる音楽を、と努力した。

生徒たちはは人前で体を動かすことに慣れておらず初めは恥ずかしがって居たが徐々に慣れて楽しめるようになった。国歌や現地の民謡やわらべうたをドレミの音階に直して教えたところ、全員が楽器で演奏できるようになった。カンボジアの音楽を使った体操や踊りも取り入れたところ，一緒に体操することは互いを意識することを必要とするから，とても楽しかったという感想が聞かれた．内面的な成長につながる活動なのではないかと思われる.

現地で音楽を教育に取り入れる際には，カンボジアの人自信が，自分の子ども達にどういう音楽や楽器を楽しんでほしいかを考えることが重要である．また，西洋の楽器を使うのと，現地で身近にあるものを使うのと，どちらがいいのかも考える必要がある．日本では子どもの音楽文化が進んでいるが，日本の音楽文化をそのまま現地に持っていって音楽

や体操をさせるのが良いのか，注意が必要であると思う。

(２)**教材製作**

幼稚園教諭養成学校の学生は小・中・高校で図画工作を授業として習ってきておらず，ものさしを使ってまっすぐ線をひくこともできない学生がいる．そのため，線の引き方や道具の使い方から指導しなければならない．教材の使い方や遊び方の指導は二の次という状況であった．農村部では女子も鉈などを使えるので，そういう習慣を取り入れて教材製作ができればいいのかもしれない。

幼稚園教諭養成学校の学生は，音楽や美術を授業として習ってきていない世代である．現在では小学校で音楽や体育の授業が行われるようになり，中学校で家庭科の授業が行われるようになってきたという状況である．学生は絵を描こうといってもどう描いていいのか分からない．表現する経験が少ないためである．ミシンの普及もまだであり，養成学校に来て初めて使う子が多い．学校にも設備が整っていないことも問題のひとつ。

また，担当者は物の管理が下手で，いつのまにか壊れたり紛失したりしているということがある．物の管理や物を揃えることを養成学校の学生に指導していくというところから行っていかなければならない状態である．

３．養成学校のカリキュラム

(１)**改訂の動き**

幼児教育のカリキュラムは，ECCD，教員養成局，国立幼稚園教諭養成学校の 3 箇所が受け持つ．それらの間の連絡がうまくいっておらず，そのためカリキュラム改訂の動きがなかった．これまで使用していた手作りの教科書を改訂しようという動きは見られたが，専門家を呼ぶのには日当や交通費を支払わなければならず，困難であった．さらに 2005 年度から養成期間が 2 年間になってカリキュラムが変わることが決まり，教科書の改訂は行わなくてもよいという話になった．

カンボジアは，省庁の上の人の権力が強い，非近代的な状況にある．ポルポトの時代，それに続く社会主義の時代を経て，97 年に散発的戦闘が終結したカンボジアはまだ戦後数年．このため近代化は進んでおらず，自分たちで社会を変えていこうという機運がまだないように見受けられる。

(２)カリキュラム改訂の現状

カリキュラムについてはまだ決まっていない．1 年間学んで次の生徒を入れるのではなく，半分ぐらいで次の学年(試験に不合格になって待っている)をとるのではないか．そのため 4 期分の人がいて，同時に授業をやることになりそうである．

幼稚園教諭は 100 人定員から 200 人定員に増やすことを予定している。養成校は 1 校し

かない．いずれは 3，4 県に養成校が１つあるようにしたいようである。小中学校教員養成学校は各県にある．

４．セクショナリズムと園運営に関わる諸問題

(１)セクショナリズム

カンボジアの幼児教育関係部署間にはセクショナリズムが存在しているように思われる．自分のもっているものを他に分け合うことができにくく，一緒に研修をすることなども難しいといった状況である．

(２)幼稚園をとりまく諸問題

公立幼稚園は教諭の給料だけ支給されて、他の予算はほとんど来ない状況である．研修自体も少なく，遠いところから来る人を呼ぶ交通費を負担できない．

幼稚園での研修では，友達と楽しく遊ぶところということを理解してもらうために遊具・環境設定・歌・踊りなどの実技の研修を実施したが，教員たちは熱心に参加しており，教員たちに刺激が不足していること，刺激を得る機会がないことがうかがわれた．

子どもが全く来ていない園もあるが、教員たちはどうやったら子どもがくるか建設的に考え行動することができない．市の担当も手が回らない状態であり，実際には能力もないのではないかと考えられる．

カンボジアは政治的に変化したので教官の学歴や経験がばらばらで統一した考えを持つことが難しい．教員は給料が少ないので生活で精一杯で研究にまで余裕がない．外の人が入るよりも，教官の給料を補助するなどして自ら研鑽し合えるようにする方が良い場合もあるのではないか。

(３)幼稚園カリキュラムに必要な変化

幼稚園のカリキュラム全体が変化することが求められる．現地の人が，幼稚園は楽しいところ，子どもが遊ぶ中でいろいろと経験していくところであることを理解する必要がある．また，子ども中心とはどういうことかについても理解してほしい。子どもが自由にものを選んで使って片付けるなど日常生活の中での経験が長い目で見れば社会全体の規律につながっていくのではないか．

カンボジアは個人が大事にされていない社会である．大人も経験していないので子どものうちから個人として大切にされることを経験してほしい．自分で選び責任をもって活動する経験をしてほしい．

カンボジアの文化に合っているのはどういう形の幼稚園なのか．日本のように小学校に準じた形の幼稚園がいいのか，たとえば農繁期託児のように地域で簡単な研修を受けた人が子どもたちを遊ばせながら簡単な社会的なことを学ばせるのがいいのか、などを考えていかなければならないと思う。

５．日本の援助

(１)JICA に求めたいこと

現地への派遣を通して次の３点，①要請内容と実際が違っている，②派遣された者の自己責任で自由に動けるようにしてほしい，③現地の生活事情とかけはなれた形で援助に入るというのはどうか，を JICA に求めたい．

(２)援助をするにあたって

現地に伝わっているいいものを大事にしていきたい．子どもにとっていいものだと気づいていないということもあるので，外からの目で言ってあげられることもある．そのいいものを大事にしていきたい．カンボジアは自らの文化に自信を失っている部分があり，英語が出来ればいい，外国からきたものならなんでもいいと思っている．そうではなく，自国の文化を大事にしていってほしい．

(8)カンボジアと日本

カンボジアにとって日本は最大の援助国であり憧れである．日本の大学が援助に入るというのはいい意味で権威である．いいものを伝えてもらえれば素直に伝わっていくと思われる．子どもの生活・幼児教育は先進国でもまだまだ試行錯誤であると思う．人間の子どもが人間らしく育って人間が生きやすい世界を作っていくために，成功したところ，失敗したところを紹介し，一緒に研究しあっていくという形がよく，カンボジアの励みにもなるのではと思う。

カンボジアは現在も混乱の時代であり，かつてあった社会的秩序が崩れている．その難しい社会の中で幼児教育ができること，人間として大事なことを幼児教育の段階からどのように取り入れていくかが大切なのではないか。

日本は伝統と近代化の両方がある．アジアの中で伝統と近代化の両方を取り入れることの理解が出来ている国であると思う。(アジアのよさ＋近代化)．その日本だからこそ持つことができる援助の視点があるのではないだろうか。

６．質疑応答

(１)小学校 1 年生から 2 年生への進級が困難な理由は？

進級試験の問題を実際に見ることはできなかった．カンボジアの 1 年生は読み書きそろばんを学ぶが，クメール語の文字は子音 33 と母音 26 という難しい文字であり，経験のない子どもが学校に入ってから 1 年間で覚えることはできないと考えられる．また，集団生活経験のない子どもが多いため，学校の先生が怖いために，学校に行かなくなることもある．学校が遠いので小さい子は行かなくなってしまうこともあり，親が「学齢になったから学校にいかせよう」という考え方をまだまだ持っていないことも理由として考えられる．

進級が困難な理由はこのようにいろいろな要素が考えられ，小学校課程の見直しや小学校との連携が必要ではないかと考えられる．

(２)幼稚園が識字中心であることは仕方がないか？

小学校で字や数に早く慣れるためには経験が必要だと思われる．学校で進級ができないと次の学年が入ってきて(進級できなかった子は)同じ学年になり, 1 年生が肥大してしまう．地方では両親が識字できない家庭も多く，新聞を読むことなどももほとんどない。文字がまわりにないので(日本のように)自然に覚えていくことがない．

(３)養成課程を 1 年間から 2 年間へと変えようとしている動きの理由と，それを進めた力は？

きちんとした考えがあって変えるのではないような気がしている．世界的に幼児教育は大事だと言われている．ドナー国の意向もあると思われる(小学校の進級率があがれば成果になってまた資金が提供されるだろう、等)．単純に「1 年間では不十分だからせめて 2 年間にしよう」と考えているだけなのでは。外圧もあるのではないかと思う．

養成学校の教官に聞くと，養成期間は 2 年間になるが教官の数は増えないらしい．寮はできたが内容的な面ではまだまだで，きちんと考えられていない．

(４)小学校のカリキュラムを見直そうとしない理由は？

基本的に落第制なので(もともとフランスのシステムでやっている)5 割が落ちるという形になっていると思われる(酒井)．

かなりフランスの制度を反映している．教育省などの偉い人間はフランスで教育を受けているという状況が見られる．

(５)小学校以降は英語で教育しているのか？

小学校以上の教育もすべてクメール語であり，インターナショナルスクールなどのハイソサエティでは英語での教育がある．英語をやっているとよい職に就けると考えるようになっている．公立幼稚園でも英語教育を行っている園に子どもが流れてしまうので，とりあえず英語を少し教えようとしている．階級社会(英語で本が読める階層とクメール語もまったく読めない階層)ができている．

絵本を卒業した子どもが読める読み物を作ってはどうかと提案しても，クメール語は難しいし売れないのでと言われる．本を買うという意識自体も少ない．

英語はいい職業につながると考えられているので学校でも無視できないが，正規の課程には入っていない．高校で初めて英語が入る．それ以前は県によってばらばらで，英語ができる先生がいればやるという状況である．

(６)養成学校 7 ヶ月で何を教えているのか？

心理学・生理学・音楽・美術などもあるが，子どもをどうとらえるかという根本的な理解がまだない．子ども観・人間観・教育観がなく，触れる機会も少ない．資料や経験も少ない．12 月半ばに入学して 7 月までの 8 ヶ月間で，正月は 1 ヶ月休み，5〜6 月に実習に行って，その後卒業試験を受けて卒業する．

たとえば美術という科目があっても，最初の１ヶ月は影についての講義をするなど，教授方法が古く，改良の仕方が分かっていない．

教育学などもあり, 科目自体はそろっているが, 内容が古い. 教科書など資料が少ない(外山).

文学などもあるが，数年前まではベトナム文学を習っていたりしたとのこと。カンボジア全体が時代に翻弄されてきた、と言えるかも知れない。教官も時代的にきちんと教育を受けていた人ばかりではなく，理解力が生徒とあまり変わらない人もいる．英語などは学生の方が出来たりする．

(７)幼稚園教諭養成学校の学生の就職率は？

公立の幼稚園は資格がないと働くことができないので，100％の就職率である．小学校つき幼児組が増えているので全員が就職できるが．自宅から通えないところに就職することになる生徒がいたり，都会の場合午前中公立幼稚園で働いて午後は私立幼稚園でアルバイトをする生徒もいる．

(８)実習の中身は？

公立幼稚園は，教師 1 人で 50 人の子どもを見ることがあったりする非常に厳しい状態であり，実習生がきたら助かるという考えもある．実習に行ってはじめて子どもに接することになる．実習先では掃除などをさせられる．

全国統一カリキュラムに従ったやり方のマニュアルにしたがって実習をさせられ，それにのっとってやっているかを教師がチェックしている．すべてが決まっているマニュアルで工夫の余地がなく自由がきかない．カリキュラムにしたがってやるのがいい保育と考えられていて，自由にやるとしてもどうやっていいかもわからない．カリキュラム自体を考え直すことが必要である．工夫して何かをするという経験が学校時代・日常生活でも少ないと思われる．

(９) 要請と実際とのズレとは？

JICA の場合は現地から要請が来て，要請されたことが本気で出来るだろうと思って行ったが，要請が思ったようではなかった．要請側は JICA のシステムをよくわかっていなかった．自分たちでどうしたいからどういう形のどういう援助がほしい，というところまで意識があがっていない．事前調査，本当に何が出来て何が必要かという調査が必要である．

すれ違いが非常に大きく，ニーズとこちらができることをあわせないと無駄な苦労になることもある．援助の仕方によってはその社会を壊すこともあるのではと感じた．幼児教育ではマレーシアやスリランカのようにいい結果の出たところもあるようだが，カンボジアでは援助が入ったがために部署間で問題が起きている現実もある。

日本は「自分のいらないものをあげる」という考えを卒業すべきである．自分たちの思い入れと向こうの必要なものとの食い違いがあること，自分たちの大事なものは相手にとって必要がないものかもしれないことを考えなければならない.

(10)絵本の活動とはどういったものか？

NPO で小学校を中心に図書館活動(出版や研修と絵本配布)をしているところがあり，幼稚園でもやっているところはある．フランスの団体も出版をしているが，幼児向きはなかなかなく，学校に通う子ども向けが多い.

お話の伝統はあり，両親からお話をきいている子どももいる．絵本がないからだめではなく，絵本がなくてもお話でいろいろなことができる．生徒達が自分で絵本をつくるということまでできればいいが養成期間ガ短いのでそこまではまだ至らない.

“お話”は田舎ではまだ行われているが，都会ではテレビ・ビデオなどが入ってしまった.

(11)幼稚園及び小学校以降の教育年数は？

幼稚園は 3 歳児～５歳児までを対象としている．保育所や乳児を預かる施設はまだ制度ができておらず，乳児を預かる施設は制度的にない状況である．社会主義の時代には保健省管轄のものが会社などにあったが現在はなくなった.

小学校は 6 年生までで，6・3・3 制度になっている．中学校までが義務教育だが実際はそうはなっていない.

(12)教諭養成学校と養成カリキュラムについて

教諭養成学校は大学システムに教員養成学校という形で入っている．教育省管轄の教員養成大学の一種である.

カリキュラムの改訂には３つの部局が絡んでいるが，７ヶ月から 2 年の養成課程にすることを決定するのは教員養成局である．最終的なカリキュラムの決定権も教育養成局だが，内容の検討は教員養成局だけでは出来ない．幼稚園担当の 2 人(ロシアで研修)は全国のカリキュラム改訂能力はないと言われている.

(13)小学校以降の師範学校はどのようになっているか？

小・中学校に関しては各県に師範学校があるが，レベルはまだまだである．小・中学校は 2 年師範学校に通えばなれる．高校教諭の師範学校はプノンペンにだけある.

養成期間を 2 年にすることで，小学校の先生としても教えられるようにするのではないかと思われる．タイのように，幼稚園をほとんどの小学校に併設という形にするのではないかと考えられる．

(14)子どもの様子について

友達と遊んだりするのは楽しそうである．知的な好奇心をそれなりに満たされれば楽しそうに通ってくる．ただ，保育のやり方によって楽しそうにしている度合いは違っていると思う．

(15) JICA と要請国との関係

保育の中身よりも先生が「給料が安い」ことを口にしたり，JICA＝金のなる木と考えている．JICA の話にうんと言っておけばいいことがあると思っていたのではないか．支援のコンセプトを考え直す必要がある(瀬田).

JICA から人が入ると何かの面では潤うというのは事実である．本当はそれが支援ではないが，向こうにしてみればものはほしいのは当然と言える．援助の産業みたいになってきている部分があるので，大学という良い意味での権威が，JICA の援助の姿勢の改善にも助力してほしい.

(16)事前調査と事後評価はどのようになっているか？

現地で調整員が要請内容を調査する。SV を何人送りいくら費やしたかが実績になるだけで，活動の内容・質についての調査はほとんど行われていないのではと感じた．事後評価は，派遣された人がレポートを書いて報告会をするのみ.

(17)SV 級の調整員の必要性について

幼児の暮らしは大切な分野で，JICA が本当にやればいい仕事なのにできない．かつては幼児教育の SV はおらず，若い隊員の派遣をしていた．掘り下げるためには SV が大事である．SV の協力隊の隊員で経験もある人のためにポストを作って派遣している．やりだして問題がでてきて解決していくという形で進めていけばよいのではないか(前田).

(18)他国における音楽活動の状況

①ベトナムについて(箕浦)

リズム遊びなど自由なものが増えてきている．教育省と厚生省が一緒になってやろうとしている．ベトナムでやっているいいものをカンボジアに紹介するというのはどうか？タイでの成果を紹介するのはどうか？

西洋型のタイへの憧れを持ち，占領していたベトナムには反感を持つ人が多い(野村).

②パキスタンについて(瀬田)

学校のカリキュラムに音楽はない．1 年生の下のクラスがあり，70 年代には盛んだが 80 年代にすたれた．文字などで歌の時間はない．子ども中心を取り入れているところでは歌をやっている．ユニセフの支援があるところでは歌（英語とウルドゥー語）などもやっているがマイノリティである．パプワニューギニアは歌や遊戯を取り入れている．